

元旦メッセージ

2008. 1. 1 (火)

ベック兄メッセージ (メモ)

私たちの主は、本当に素晴らしいお方ではないでしょうか。この主を紹介することこそ、私たちの素晴らしい特権です。

先日、S 兄姉から手紙をもらいました。

イエス様がこの世においでくださったこと、そして、まもなく私たちを迎えにおいでくださることを、心から感謝して御名をほめたたえます。2008年がますます主のご栄光の現われる年になりますように。ご再臨を待ち望みながら。

という手紙でした。

確かに、人生の旅路は散歩道ではありません。闘いそのものです。人間との闘いでもありません。悪魔に対する闘いです。

ご存じのように、大事な節目に至ったとき、私たちがどのような態度をとるかは非常に大切なこととなります。新しい年を迎えるとき、私たちは何を期待するのでしょうか。

同じように、結婚する前の態度も大切です。ちょうど七年前に結婚した M 兄弟と当時の H 姉妹のとった態度は、非常に立派でした。(お二人の許可なしに、ちょっと彼らの書いた手紙を紹介いたします。)

5月5日、御代田福音センターで、結婚へと導かれました M と H です。お忙しい中、私たちそして家族親族のために、お時間を割いていただき本当にありがとうございます。

私たちの結婚指輪に刻んだみことばは、黙示録 22 章 20 節です。

「これらのことをあかしする方がこう言われる。『しかり。わたしはすぐに来る。』アーメン。主イエスよ、来てください。」

このみことばは、これから二人で間近に迫るイエス様の再臨を待ち望む生活をしていきたいと思ったからです。聖書の最後にあるので分かりやすいということもありますが、式次第には次のみことばも書くことにいたしました。黙示録 22 章 17 節と 21 節です。

「御霊も花嫁も言う。『来てください。』これを聞く者は、『来てください。』と言いなさい。渇く者は来なさい。いのちの水がほしい者は、それをただで受けなさい。」

これは招いておられるイエス様を、式に来られるお一人お一人に知ってもらいたいからです。

私 (M) は、あるとき姉妹 (H) に聞きました。「結婚式と再臨、どちらが先がいい？」と。姉妹は迷わず、「もちろん再臨です」と答えました。僕自身はどちらが先でも素晴らしいと思っていたのですが、そうはっきり言われると正直びっくりしました。この人は本当

に主を愛している。尊敬できる人だと思いました。

結婚式当日は、何十年ぶりの再会となる親族や友人が来てくれることになっています。その方がたみんなにも、是非イエス様と再臨を知っていただきたいと思います。イエス様だけが、この暗い不安な時代にあって本当の希望なのですから。そしてイエス様の再臨を待ち望むことこそ、本当の勤勉さと豊かな報いをもたらすのですから。

当日どうぞ多くの人々の心に、今この時も、主が豊かに働いてくださり、みことばを聞く備えがなされますように、お一人お一人が飢え渴きをもって式に臨むことができますように是非お祈りください。

最後に、主に喜ばれる家庭が築かれるよう、私たちのためにもお祈りください。

かつてのこと、ドイツの総理大臣の親戚ワイツェッガー博士（大学の教授）は、あるとき学生たちに聞きました。「確かなことはいったい何か?」。学生たちは一人一人、思い思いのことを言いました。けれども、いつまでたっても埒（らち）があかない状態でしたので、一人の学生が勇気を出して、立って教授に聞きました。「先生。先生は、いったいどう考えておられますか。何を考えておられますか?」。ワイツェッガー教授は、「最も確実なことは、イエス・キリストが来られることだよ」と。

「イエス様が近いうちにまた来られる」という確信こそ、光、喜び、希望、力です。

パウロは、テサロニケ第一の手紙1章9節で、「私たちはイエス様を待つために救われた」と言っています。

テサロニケ人への手紙・第一 1章9、10節

私たちがどのようにあなたがたに受け入れられたか、また、あなたがたがどのように偶像から神に立ち返って、生けるまことの神に仕えるようになり、また、神が死者の中からよみがえらせなされた御子、すなわち、やがて来る御怒りから私たちを救い出してくださるイエスが天から来られるのを待ち望むようになったか、それらのことは他の人々が言い広めているのです。

しかし、私たちはどうでしょうか。本当にイエス様を待ち望んでいるのでしょうか。

なぜ、「イエス様を待ち望む生活が大切」なのでしょう。四つの理由が考えられます。

*第一番目。「イエス様を待ち望む生活」こそ、本当の意味を持っています。

それに対して、イエス様を待ち望むことのない生活には、意味がありません。「なぜ私はあれこれをしなくてはいけないのでしょうか。また、全ては無駄なのではないのでしょうか」。このような問いを抱いている人は沢山います。

もしも、何かを「待ち望む」心が失われてしまったなら、人生は本当に退屈で空しいものになってしまいます。この「待ち望み」、あるいは「期待」を失ってしまった場合には、

無関心になって何もしないか、あるいはもう完全に絶望するかのどちらかです。けれど、私たちは「イエス様を待ち望んで」います。イエス様は必ずおいでになります。

*第二番目。「待ち望みの生活」は、「目を覚ましている生活」です。

期待は目覚めさせます。とりわけ、永遠のいのちを提供されているということに目が開かれなければなりません。眠っている者は聞くこともできません。イエス様を待ち望んでいない者は、自分自身の本当の状態に対してまったく盲目です。

イエス様を「待ち望んでいる者」は、イエス様を悲しませないようにと絶えず心を遣っています。けれども、「イエス様を待ち望まない者」は、盲目であり、イエス様のみ声に対して難聴となるのです。

*第三番目。「待ち望みの生活」は、「責任ある生活」です。

私たち一人一人は誰も、ほかの人に対して責任をもっています。今、S兄弟の言われた通り、あの年配になるとだいたいの人たちは自分、自分、自分のことしか考えません。もしそうだとすれば、大変みじめです。ほかの人たちのために心配するようになれば、自分の問題は本当に小さくなるのではないのでしょうか。

イエス様を待ち望む生活は、消極的ではなく、積極的、行動的です。イエス様を待ち望んでいる者は、機会を十分に生かして用いています。また、待ち望んでいる者は、自分のことは忘れ、まず第一にイエス様のことを考える人です。また、「イエス様を待ち望んで」責任ある生活を送っている兄弟姉妹は、絶えずイエス様のまなざしを意識しているのです。「イエス様を待ち望んでいる人」は、イエス様を愛しています。

本当にイエス様を毎日意識して待ち望んでいない人は、イエス様を愛しておらず、自分中心的な生活をしている人です。

*四番目。「待ち望みの生活」は、本当に「喜びの生活」です。

「イエス様を待ち望んでいる兄弟姉妹」のために、今日、イエス様は来られるかもしれません。このような「生き生きとした待ち望みの信仰」が、人間を全く変えてしまうのです。あらゆる思い煩いや苦しみ悩みなど、「イエス様の再臨」を思うと消えてしまいます。そして、「待ち望み」と「喜びの生活」をおくる源は、(テープチェンジのため不明)です。

たとえこの確信を今持っていない人でも、「救われよう」と思えば、今日、イエス様が「自分の救い主」であることを、必ず体験的に知るようになります。

こんにちの、恐るべき混乱と動乱、また失望と闇の中にあって、「イエス様は来られる」という「真理」こそ、私たちに本当の喜びと平安を与えてくれるのです。

了